

キャンパス

音声障害をテーマに研究を進めている。声帯麻痺などで音声に障害がある患者には、動



かない声帯を発声に適した位置に固定する手術を実施。術者の経験や技量が、音声の仕上がりに影響するため、

旭医大 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座

道内で日常的に行っている耳鼻咽喉科医は、わずかしかないという。同手術の簡便化や、患者の利便性向上を目指して、電気刺激で動かない声帯の可動性を回復させるシステムの研究が現在のメインテーマだ。

筋肉の表面に電極を設置、外部デバイスからの電気刺激で、声帯を発声に適した位置ま

片田 彰博 准教授

で動かして固定。電気刺激の強度を調節することで、声帯の位置が容易に設定できるため、「誰が手術をしても一定の効果が得られる」と成果を強調する。

動物実験から人への応用に向けて、手術方法確立のほかに、民間企業と機器開発の共同研究を開始。声帯に合わせた電極形状や特化した機械、体内に埋め込む刺激装置などの試作機開発を進め、臨床応用に近づけている。

音声手術の簡便化へ